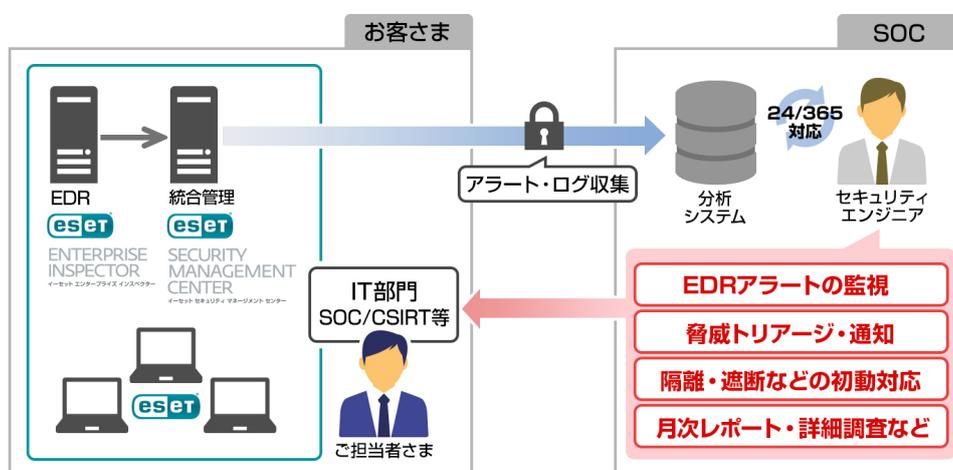


NEWS RELEASE

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

セキュリティインシデントの的確な検知と被害抑制を支援 EDR 運用監視サービスを提供開始

キヤノンマーケティングジャパン株式会社(代表取締役社長：坂田正弘、以下キヤノン MJ)は、EDR 製品「ESET Enterprise Inspector (イーセット エンタープライズ インспекター)」を活用した“EDR 運用監視サービス”を2020年5月8日より提供開始します。本サービスは、インシデント発生時の速やかな状況把握と被害の最小化を目的とした、お客さまのインシデントハンドリングを支援するサービスです。



企業は、高度化、巧妙化し続けるサイバー攻撃に対し、防御を中心とした事前対策だけでなく侵害発生時の早期検知・対応・復旧などの事後対策の重要性や必要性に迫られており、EDR^{*1}製品やそれを用いたマネージド・サービスの需要が高まっています。一方、IDC Japan の調査によると EDR 製品や MDR^{*2}サービスの導入比率は23.4%にとどまり^{*3}、EDR の運用・監視にかかるコストの高さが普及の妨げになっています。

キヤノン MJ は、IT セキュリティに特化したコンサルティングや脆弱性診断などのサービスを展開する株式会社ブロードバンドセキュリティ(代表取締役社長：持塚朗、以下 BBSec)との協業により、高い検出力と低い誤検知率を誇る ESET 社の EDR 製品「ESET Enterprise Inspector、以下 EEI」の運用監視サービスを年額2,300円^{*4}から利用できる“EDR 運用監視サービス”を提供します。本サービスは、BBSec の SOC (Security Operation Center) から、お客さまの EEI を専門のセキュリティエンジニアが24時間365日体制で監視し、EEI が発するアラートを監視・分析して危険度に応じて状況を通知します。また、インシデントが発生した場合でも侵害端末のネットワーク隔離や不正なプロセスの強制停止、侵害状況の調査報告^{*5}などの初動対応を行い、被害の最小化を支援します。お客さまはシステムや業務の復旧やステークホルダーへの情報公開、再発防止策の検討など、より重要な対応に専念できます。

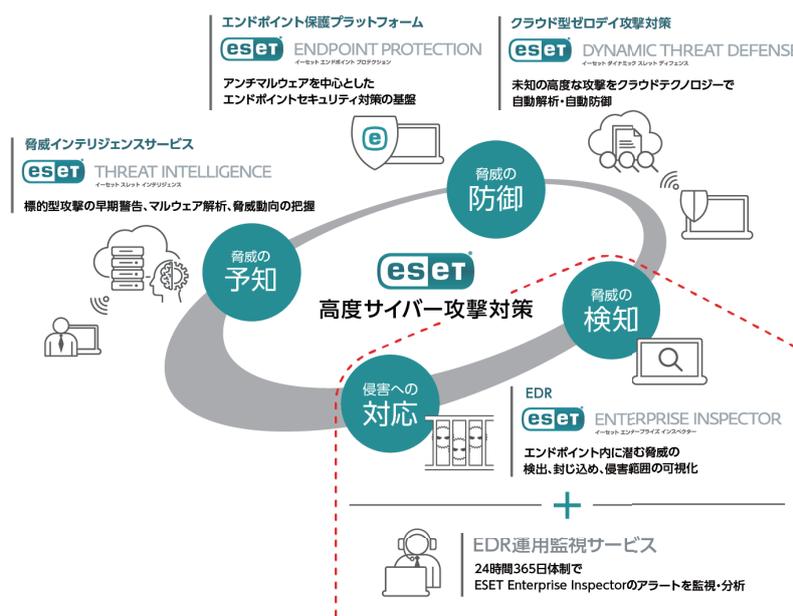
キヤノン MJ は ESET セキュリティ ソフトウェア シリーズ製品の提供に加え、EDR 運用監視など新たなセキュリティサービスの強化を図ることで、2021年にエンドポイントセキュリティ事業で売上100億円を目指します。

サービス名	サービス価格(税別)	発売日
EDR 運用監視サービス	2,300円/年 ^{※4} ～	2020年5月8日

- ※1 Endpoint Detection & Response の略。エンドポイントで脅威を検知して、事後対策を支援する製品。
- ※2 Managed Detection & Response の略。EDR を用いた監視・対応業務のアウトソーシングサービス。
- ※3 出典：IDC Japan,2019年6月「2019年 国内情報セキュリティユーザー調査：企業における対策の現状」(J44004519)
- ※4 運用監視対象端末1台あたりの金額。実際の価格はサービスプランおよびオプションの有無により異なります。導入費用が別途必要です。ESET Enterprise Inspector および関連ソフトウェアのライセンス費用やハードウェアに関する費用、ネットワーク費用は含まれておりません。最少250台よりご利用いただけます。
- ※5 提供内容はサービスプランおよびオプションの有無により異なります。

-
- 報道関係者のお問い合わせ先：キャノンマーケティングジャパン株式会社
 広報部 パブリックリレーションズグループ 03-6719-9093(直通)
 - ニュースリリースホームページ：canon.jp/newsrelease
 - EDR 運用監視サービスホームページ：<https://eset-info.canon-its.jp/business/eei/mdr.html>
-

<高度サイバー攻撃対策における EDR 運用監視サービスの位置づけ>



キャノン MJ はサイバー攻撃の予知から防御、検知、対応までの包括的なセキュリティソリューションを提供しています。脅威の検知、侵害への対応を支援する“EDR 運用監視サービス”の提供により、迅速で確実な事後対策につなげます。

<株式会社ブロードバンドセキュリティ様からのエンドースメント>

このたび、キャノンマーケティングジャパン株式会社様と、EDR の分野で協業できることを大変光栄に思います。今後多数のお客様に導入される EEI に、当社のサービスを組み合わせてご提供できることで、お客様へのご負担を最小限に抑えながら、24時間365日体制で、より高度できめ細かいセキュリティ監視をご提供できるものと確信しております。

株式会社ブロードバンドセキュリティ
 取締役 情報漏洩 IT 対策ビジネス管掌 岡田俊弘

<株式会社ブロードバンドセキュリティの概要>

商号：株式会社ブロードバンドセキュリティ

代表者：持塚 朗

U R L：https://www.bbsec.co.jp/

主な事業内容：セキュリティ監査・コンサルティングサービス／脆弱性診断サービス／
情報漏洩 IT 対策サービス

設立：2000年11月30日

資本金：2億8,300万円

所在地：東京都新宿区西新宿8-5-1 野村不動産西新宿共同ビル 4F

株式会社ブロードバンドセキュリティは、お客様それぞれの課題に的確な答えを導き出すセキュリティ監査／コンサルティング、様々なアプリケーションの脆弱性リスクを発見し対策を提案する脆弱性診断、日々の情報システムを情報セキュリティリスクから守る情報漏洩 IT 対策の3つのサービスカテゴリを核にサービスを展開しています。

< EDR 運用監視サービスの主な特長 >

1) 24時間365日体制での監視・分析と的確な脅威トリアージ

高い検出力と低い誤検知率を誇る ESET 社の EDR 製品「ESET Enterprise Inspector (以下 EEI)」が発するアラートを、お客さまに代わりセキュリティオペレーションセンターにて24時間365日体制で監視・分析します。アラート内容は危険度に応じて適切な手段で通知されるため、お客さまは危険度の高い脅威から優先的に対処できます。セキュリティオペレーションセンターは株式会社ブロードバンドセキュリティが運営し、確かな技術でお客さまをサポートします。

2) 同一ベンダーの製品だからできる総合的な分析

詳細分析においては、アンチマルウェア・アンチウイルス製品「ESET Endpoint Protection シリーズ」のアラートも参照。EDR とアンチマルウェア・アンチウイルスともに ESET 社製品だからこそできる、総合的な分析が行えます。

3) 圧倒的なコストパフォーマンス

高度な知識・スキルが求められる EDR の運用監視を1台あたり年額2,300円^{*1}、月額換算でわずか192円からご利用いただけます。EDR 導入を検討しながらも、高度セキュリティエンジニアの確保や24時間365日体制の維持にかかるコストがネックだったお客さまも、手軽に事後対策を強化できます。

4) ニーズに応じて選択できる柔軟なサービスプラン

アラートの通知を中心としたエントリープランと、端末隔離などの被害抑制まで行うスタンダードプランをご用意。スタンダードプランにはアラートに対する詳細調査やセキュリティアナリストによるエグゼクティブサマリが得られる月次レポート追加などのオプションを付加することもでき、より強固で確実な運用を求められるお客さまにも対応します。

<サービスメニュー>

▼初期セットアップ

導入前コンサルティング、サービス要件定義、EEI サーバー構築・初期設定、アラート精査(チューニング)など※2

▼監視・イベント対応

サービス内容	サービスプラン	
	エントリー	スタンダード
検知イベントの通知	●	●
検知イベントの分析	-	●
端末隔離※3	-	●
ホワイトリスト / ブラックリスト対応	-	●
ポータル機能	●	●
月次レポート	●※4	●※4
オプション：詳細調査分析(追加調査)	-	○
オプション：月次レポート追加	-	○※4
オプション：月次報告会	-	○
オプション：事後対策支援(フォレンジック対応)	○	○

[凡例] ●：標準提供、○：追加導入が可能、-：非対応

※1 運用監視対象端末1台あたりの金額。実際の価格はサービスプランおよびオプションの有無により異なります。導入費用が別途必要です。ESET Enterprise Inspector および関連ソフトウェアのライセンス費用やハードウェアに関する費用、ネットワーク費用は含まれておりません。最少250台よりご利用いただけます。

※2 サービスプランによって提供内容が異なります。

※3 ESET Enterprise Inspector と ESET Endpoint Security を併用している場合のみ有効です。

※4 エントリープランでは検知状況をサマリとしてレポートします。スタンダードプランではこれに加えて対応報告を、さらに月次レポート追加オプションでは、セキュリティアナリストによるエグゼクティブサマリを提供します。

<月次レポート サンプル>

The image displays three overlapping sample pages from a monthly report. The top page is titled "2. 運用実績報告" and "2.1. 当月の監視/対応実績". The middle page shows a table of detected events with columns for "検知日時", "検知品名", and "検出端末". The bottom page shows a detailed view of a specific event with a table of "検知日時", "検知品名", and "検出端末", and a "Description" column containing details about the event, such as a file upload to a web server.